

【男子の部】**支部 両雄**
石田・小笠原の決戦
 小笠原に軍配
 【女子の部】**松本**(蒲公英の会)
三位の初栄冠



表彰を受ける小笠原、石田両選手



第 10 号
 発行場所 町内
 高崎市石道館
 高崎市武責任者
 発行責任者 高崎支部
 剣道連盟 高崎支部
 広報担当 上條

第37回

群馬県社会人剣道大会

七月二五日、高崎市立中央体育館で高崎支部主催の第三七回群馬県社会人剣道大会が開催されました。会場の高崎中央体育館は、建設されてから相当の年月が経ちます。浜川体育館が建設されるまではここが高崎の室内スポーツのメッカであつたことは言うまでもありません。剣道に限らず多くの優秀選手を輩出してきたことと思つます。この大会ももう三七回ですからこの体育館とともに長く歩み続けています。大会前日は夕方から高崎支部の多くの皆さんの手により会場が整

えられました。今年も県内の多くの剣道マンそして女史剣士の皆さんが参加してくれました。今回から女子の団体戦が行われるようになり社会人女性に剣道が普及されている証と言えましょう。母親の剣道姿を観てその子が剣道始めるそんな自然の形で剣道が未来へ伝わっていけば最高です。昨年は例年になく涼しかった大会と記憶しますが、やはり今大会は暑かったです。この暑さの中を勝ち進む選手達の日頃の鍛錬は並大抵のものではないと感心する。開会式では、熊倉大会会長の挨拶に続き、来賓として衆議院剣道師範で



剣道から離れることなく、前島先生

本県出身の田口先生が「負けても惜しまれる試合を」つづいて全国官公庁剣道連盟副会長前島七郎先生が次のように述べられました。「三十一年前防具を担いで高崎へ転勤してまいりました。その後毎年選手の皆さんの熱気を見させていただいている。私は齢八十にもなりますが、まだまだ仕事もしておりますし、剣道も田口先生に教えていただいています。どうぞみなさん決して剣道から離れることなく頑張っていただくことを切に望みます。」同先生は、試合開始後も各試合場をめぐり、それぞれの立ち合



宣誓：沼田武藤選手

いを肌身で感じておられました。挨拶の後に、選手宣誓が行われました。昨年の団体覇者代表沼田尚修館キャプテン武藤選手が声高々に「熱中症にならぬよう頑張ります。」と宣誓しました。つづく日本剣道形公開演武は、

多野藤岡支部の飯島豊七段として飯野一彦七段に披露していただいた。仕太刀を演ぜられた飯野七段は、高々剣友会のメンバーで、先の群馬県七段選手権決勝戦で、全日本選手権で活躍した石原選手と対峙し善戦をされました。迫力のある剣道形を皆さんに披露していただきました。試合は六試合場で行わ



剣道形：(左)飯島七段(右)飯野七段

れました。一、二戦が終了すると館内はもうむんむん熱気だらけである。変わらぬ氷麦茶が玄閑に備えられ乾いた選手のだ元を今年も奥底から癒しました。予選リーグは各二戦の立ち合いである。高崎支部の選手達の活躍はどうだったでしょうか。個人一般の部でみせてくれました。支部中堅石田(高崎武道館)と若手小笠原がそれぞれ勝ち進み高崎勢同士の決勝となりました。兩人共に引かずの攻め合い、時間内には勝負がつかず延長戦、最後はちよいと若い分た



三位入賞：松本牧選手

ないときが、もつともつと、その才能をのぼして、将来の高崎支部を担って行って欲しいと思います。女子個人の部では松本牧選手。忙しい時間を割いての出場だ。大健闘し3位に入賞しました。松本



両種決勝：(右)石田 (左)小笠原

けスピードを携えていた小笠原の面技が石田をとらえ決まりました。小笠原選手もなかなか体が現役。仕事も大変で稽古ができ

| 試合区分 | 優勝 | | 準優勝 | | 3位(二チーム及び二名) | | | |
|--------|----------|---------|----------|-------|--------------|---------|----------|----------|
| | 氏名・チーム名称 | 所属 | 氏名・チーム名称 | 所属 | 氏名・チーム名称 | 所属 | 氏名・チーム名称 | 所属 |
| 男子団体1部 | 尚修館成員会 | | 渋川北群馬A | | 相馬原自衛隊 | | 誠心堂 | |
| 男子団体2部 | 渋川北群馬 | | 尾瀬剣友会A | | | | | |
| 男子の部 | 小笠原 俊介 | 高崎支部 | 石田 寛 | 高崎武道館 | 高橋 和孝 | 安中碓氷剣正会 | 楠木 毅 | 利根沼田剣道教室 |
| 男子壮年の部 | 大濱 秀彦 | 千代田町興武会 | 船田 一夫 | 群馬県庁 | 市川 浩司 | 前橋剣心会 | 横山 公一 | 利根沼田剣道教室 |
| 女子団体の部 | 桐生支部女子部A | | 利根沼田剣道教室 | | | | | |
| 女子個人の部 | 野村 佳代子 | 愛武館 | 西尾 としみ | 県連女子部 | 松本 牧 | 蒲公英の会 | 小池 美千子 | 県連女子部 |

選手もなかなか仕事繁忙で稽古の余裕がない中で立派な記録でした。結果は左表のとおりです。



雷鳴館入場

七月二十四日、日本武道館で平成十六年度全日本少年武道錬成大会剣道の部が開催されました。この大会は、全国から頂点を目指して多くの選手達が出場する少年少女剣道

日本武道館 全日本少年武道錬成大会

高崎剣道教室チーム念願の一勝★

☆☆☆



念願の一勝：高崎剣道教室

の甲子園のような大会で二日に分けて行い、各日8チームの優秀チームを選抜します。試合方法は打ち込み基本判定で一本、そして立合い一本勝負で



発心館入場

競い合います。

高崎からは高崎剣道教室、発心館、雷鳴館の三道場が出場しました。一斉に館内ライトオン。その瞬間大歓声が。さあ入場行進の

始まりです。続々と選手達が入場し式場はもうありも入れる隙間もないほどである。少年剣道人口の減少が危ぶまれるなかこうして全国の諸君が集うとまだまだ剣道も元気だと感じます。



宣誓：中沢さやか

さんが「あこがれの日本武道館で全国の剣道の仲間と悔いの残らぬよう最後まであきらめず頑張つて戦います。」と名前のようにさわやかに誓いの言葉を宣誓しました。次に千葉県の佐貫清心会の子どもの木刀による少年少女演武が披露されました。六名の剣士のなかに二人も女の子が演じていました。いずれもその凛々しい姿にはため息が出ます。さて、一斉に試合の開始です。第八試合場で発心館が東京の敬天館と、第十二試合場で高崎剣道



木刀による少女演武

教室が千葉若草剣友会と第十六試合場では雷鳴館が岐阜の岐南少年クラブとそれぞれ戦いました。高崎剣道教室は僅差であったが、初戦突破の目標をめでたく達成致しました。昨年は慶雲館が三回戦出場とこの大会では快挙と思える成績を残しておりますが、なかなか初戦をものにするのは大変だ。雷鳴館と発心館は奮闘むなしく初戦の大壁を乗り越えることが出来ませんでした。高崎剣道教室第二戦は香川県二番丁クラブです。立合いの方はほぼ互角であったが、基本打ち込みにはほとんど旗を落としてしまい第三戦への進出はなりません。でも六年生はこのひのき舞台武道館で一勝したことは小学時代最後の夏の思い出として長く心の中に残ることでしょう。

平成16年度高崎市中学校総合体育大会

中体連夏季剣道大会

気は早く 心静かに 身は軽く
目は明らかに 技は激しく
北辰一刀流 千葉 周作のことば



昨年秋の大会から愛蘭街
☆☆☆☆中尾中女子チーム

女子団体 **中尾** 男子団体 **高松**
☆☆☆☆とにも **春夏連覇** ☆☆☆☆
女子団体 **寺尾** **大奮闘** **準優勝**
女子個人 **井田連覇** **男子小川初優勝**

七月十八日、寺尾中体育館で平成十六年度高崎市中学校総合体育大会剣道大会が開催されました。市内中学校十六校から多くの選手達が出場しました。夏の大会ですから三年生にとつては、長い人生において二度と巡ってくることはない大切な三年間の総仕上げです。

岡田先生挨拶



岡田先生挨拶



新井先生

試合の開始です。試合場は四会場第一、第二



杉本選手宣誓

選手が「正々堂々と戦う」と宣誓をしました。また開会式の閉めに片岡中新井先生が会場使用のマネーを訴え「勝つても負けてもすがすがしい態度で」と強調されました。さて

「日頑張りましょう。」橋本支部長の激励の挨拶のあと、塚沢中、杉本智

開会式では、岡田寺尾中学校長先生が次のように挨拶されました。「今日は三年生にとつて、これまで蓄えた力を発揮する日です。心・技・体が一致して初めて勝つことができますが、多くの生徒たちは負けてしまうわけです。しかし勝つても負けても気持ちの充実した今日一日をおくることができればそれが一番良いことと考えます。今日一日頑張りましょう。」



中尾中に奮戦：第一中選手達

一中を相手に意外と苦戦だ。苦戦の中をなんとか凌ぎ決勝へと駒を進めた。第一中善戦である。一方

女子は春の覇者、中尾中と準優勝の佐野中が順当に初戦二戦と勝ち進む。それぞれコート決勝で中尾が第一中の挑戦を、そして佐野が寺尾中の挑戦を受けました。中尾は第

試合場で男子団体、第三、第四試合場で女子の団体戦が始まりました。男子は春の覇者、高松中と第二位佐野中がまたしても決勝戦を繰り広げました。春の雪辱を目指す佐野中は先鋒、加藤そして大将齋川が共に奮闘したが及ばず、2勝3敗の僅差で高松中に春夏連覇を許す結果となりました。



完全燃焼です：寺尾中選手達

佐野と寺尾は激戦であった。絶対的実力は佐野が数段勝るものと思えたが、寺尾には信じられない勢いが今日ありました。とうとう勝負着かず代表者戦で決することに。佐野はチームきつての技巧派柴崎選手が登場、一方寺尾は、この日これまで負け知らずの勢いを背負つ

た鮎川選手。両者とも息の続く限り攻め合います。互いの攻めの連続であったという間に制限時間。延長戦です。柴崎選手の渾身の小手技アツ決まったか・審判旗が上がらず、さらに渾身の面技に出た柴崎、と同時に素早く小手技にでた鮎川。どっちだ？赤旗二本が綺麗に揃つ



初優勝：高松中小川選手

た。鮎川の小手技が勝負を決しました。寺尾まさかの決勝進出。すごい。がしかし、さすがに寺尾、これまで持っている力をすべて使い果たしてしまつたか、中尾には残念ながら完敗してしまいました。しかし、寺尾中の生徒たちには岡田先生が挨拶のなかで述べたとおりの気持ちの充実した一日が本当に得られたのではないのでしょうか。

大会結果

- 男子団体 ①高松 ②佐野 ③塚沢、大類
- 女子団体 ①中尾 ②寺尾 ③佐野、一中
- 男子個人 ①小川(高松) ②齋川(佐野) ③竹内(大類) 今井(高南)
- 女子個人 ①井田(中尾) ②矢野(大類) ③庭屋(倉賀野) 大島(中尾)

